

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> ・相手や場面に応じて言葉を選んだり、適切に使い分けたりすることができる。 ・意味や性質、役割による語句のまとまりがあることを理解し、該当学年の漢字を読んだり、前学年の漢字を書いたりして日常的に漢字を使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読むことにおいて、目的を意識して、中心となる語や文を見付けることができる。 ・読むことにおいて、文章を読んで感じたことを共有し、一人一人の感じ方の違いに気づき、自分考えを広げることができる。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな・カタカナを正しく書けている児童が少ない。ア ・文章を文字として読めてはいるが、まとまりとして意味を理解できておらず、内容を正確につかめていない。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を書く機会を増やし、読み書きの定着を促す。ア ・一つ一つの言葉に着目し、丁寧に読み取る。イ 	随時ア イ	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく書ける児童が増えたが、見直しをし、間違いに自分で気付ける児童はまだ少ない。引き続き経験を増やす必要がある。ア ・文字や文に慣れてきたことで、まとまりを意識して正しく読み取れるようになった。イ
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した漢字を、正しく使えていない児童がいる。ア ・伝えたいことを、明確にして文に表すことに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートやワークシートの文字を添削し、その都度書き直すことで身に着けさせる。ア ・例文や話型を示し、そこから自分なりの文を作ることに挑戦させる。イ 	毎回の授業ア 「読む・書く」の授業イ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週行う漢字テストに向けての練習で、正しく書ける児童が増えた。しかし、個人差がある。ア ・例文をもとに自分なりに考えて、文章を書けるようになってきた。イ
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字で使われている熟語の意味を理解している児童が少ない。ア ・読み取ったことを基に、感じたことを文章にまとめることが難しい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・熟語の意味を確認したり、調べたりする時間を増やす。ア ・中心となる語や文に着目させ、そこから引用しながら感想を書くように促す。イ 	随時ア イ	<ul style="list-style-type: none"> ・熟語の意味を理解し、新出漢字の練習では、熟語を使った文づくりができる児童が増えた。ア ・中心となる語や文を見つけて線を引き、引用しながら感想を書いた児童が増えた。しかし、個人差がある。イ

第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や場面に応じて言葉を選んだり、適切に使い分けたりすることが難しい。ア ・中心となる語や文を自ら見付ける児童が少ない。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面ごとに適切な言葉を指導する。言葉に興味をもてるように、言葉集めなどゲーム化して、興味をもたせる。ア ・語や文に着目させるため、アンダーラインを引かせる。イ 	通年 ア イ	<ul style="list-style-type: none"> ・場面に合わせた言葉遣いを知り、使い分けができるようになってきた。ゲームを通して自然と言葉への興味をもった。ア ・教科書に線を引かせる活動を取り入れることで、中心となる語や文に着目できた。イ
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・場面に応じた、適切な言葉や表現を積極的に使おうとする児童が少ない。ア ・文章の表現や描写から心情や状況を読み取る力が弱い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日記や作文の指導を通して適切な語の使用を指導する。また、スピーチや発表を通して相手に伝わる表現について考えさせる。ア ・「読むこと」の単元の中で線を引いたり考える時間を設けたりして、読み取る力を養う。イ 	通年 通年	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や家族との会話と授業中の発言などと私と公との違いを意識するようになってきた。ア ・会話や心理描写などの中から登場人物の心情に線を引く学習を通して、こういう表現がこういう心情を表していると気付くようになってきた。イ
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の使いまわしが上手な児童がいる反面、言葉を知らない児童もいて語彙力に差がある。ア ・物語、説明文に対しての自分の考えを表現することを苦手とする児童がいる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童から出た言葉や使用して欲しい言葉を板書等で視覚化して、日常的に使えるように意識付ける。ア ・書き出しを提示する、はじめ・中・終わりに書く内容を伝える等して、取り組みやすくする。日常生活における関わりの中で伝え合う力を高め、自分の考えを広げられるようにする。イ 	通年 通年	<ul style="list-style-type: none"> ・知らない言葉を辞書等で調べる時間を作り意味を理解したり、その言葉を板書で残したりして日常で使えるようになってきた。ア ・書き出しの仕方を何度も練習することで、自分の考えを書くことができるようになった。イ

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年 デジタル教科書を用いて、今どこを見ているのかを視覚的に分かりやすくする。【重点：協働】 2年 ロイロノートの提出機能を用いて、自分の思いや考えを伝える。【重点：個別】 3年 ロイロノートの提出機能を用いて友達のことを知り、自分の考えを広げる。【重点：協働】 4年 ロイロノートの送信機能で教科書のページをおくり、アンダーラインを引かせる。【重点：個別】 5・6年 ロイロノートの提出機能を用いて、互いの考えを共有する。【重点：協働】	1年 単元導入に、この単元のゴールを児童に示し、見通しをもって取り組めるようにする。 2年 授業の流れを構造化して示したり、感想を発表したりする。 3年 ペアやグループで感じたことを共有し、学習を振り返る。(3年) 4年 初発の感想と単元の振り返りでの感想を比べることで、学びが深まったことを感じられるようにする。 5年 振り返りの際に、ペアや近くの児童と話し合わせ、自分の意見に自信をもたせてから、全体で発表する。 6年 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言語感覚を養わせていく。